

■空海(弘法大師)

くわかい

蝦夷反乱始 774=

日本真言密教の開祖で大成者。文化、教育、社会事業まで実績を残した万能の天才で、伝説化した。

讃岐国(香川県)多度郡弘田郷に生まれた。父は佐伯氏、母は阿刀氏。一族には平安時代初期の宗教界を代表する人物が輩出した。

桓武天皇即位 781= 7歳 :

..... 783= 9歳 :

長岡京造営始 784=10歳 :

蝦夷征伐始 788=14歳 : 上京, 母方の叔父阿刀大足について学び,

..... 791=17歳 : 大学に入学, 明経道の学生として経史を博覧した。

..... 792=18歳 :

平安京遷都 794=20歳 : 在学中, 一人の沙門に会って虚空蔵求聞持法を教えられて以来, 大学に決別し, 阿波の大滝嶽, 土佐の室戸崎で求聞持法を修し, 吉野金峰山, 伊予の石鎚山などで修行。

田村麻呂将軍 797=23歳 : *儒教, 仏教, 道教の3教の優劣を論じた出身宣言の書「三教指帰」を著す。

この頃から, 草聖と称されるようになる。

蝦夷地平定 801=27歳 :

最澄空海渡唐 804=30歳 : 出家得度し, 東大寺戒壇院において具足戒を受け空海と号し, 遣唐大使藤原葛野麻呂に従って入唐留学に出発, 長安に到着。

大事業中止 805=31歳 : 西明寺に入り, 諸寺を歴訪して師を求め, 青竜寺の恵果に就いて学法し, 胎蔵, 金剛の両部灌頂, 伝法阿闍梨位灌頂を受け遍照金剛の密号を受けられ, 正統密教の第8祖となる。

桓武天皇没 806=32歳 : 師恵果の滅後, 越州に着いて内外の経典を収集し, 明州を出発して帰国し, 遣唐判官高階遠成に付して請来目録をたてまつったが入京を許されず,

伊予親王の変 807=33歳 : 観世音寺に入り, 次いで和泉国に移り,

嵯峨天皇 809=35歳 : *ようやく入京。経疏の借覧を契機に最澄との交流がはじまり, 嵯峨天皇の命で世説の屏風を献上したが, この頃から書や詩文を通じて嵯峨天皇や文人の認めるところとなる。

葉子の変 810=36歳 : 高雄山寺で仁王経等の儀軌による鎮護国家の修法を申請, これが空海の公的な修法の初例である。

..... 811=37歳 : 乙訓寺別当に補され修造を命じられたが,

..... 812=38歳 : 高雄山寺に帰り, 最澄や和氣真綱に金剛界結縁灌頂, 最澄以下194名に胎蔵界結縁灌頂を受けた。

..... 813=39歳 : 最澄は弟子円澄, 泰範, 光定らを空海の下に派遣して学ばしめ,

凌雲集 814=40歳 : 日光山の勝道上人のために碑銘を撰し,

..... 815=41歳 : 弟子の康守, 安行らを東国に派遣し, 東国地方への布教を企てる。この頃, 「弁顕密二教論」2巻を著し,

..... 816=42歳 : *最澄との間に密教理解の根本的な相違を表明して決別。勅許を得て高野山金剛峯寺を開創。

金剛峰寺 819=45歳 : 「広付法伝」「即身成仏義」「声字実相義」「吽字義」「文鏡秘府論」

弘仁格施行 820=46歳 : 「文筆眼心抄」などを著述して, その思想的立場と教理体系を明らかにした。伝灯大法師位。

満濃池 821=47歳 : 請われて讃岐国満濃池を修築するなど, 土木工事の技術と指導力にも才能を発揮。

最澄没 822=48歳 : 東大寺に灌頂道場を建立して鎮護国家の修法道場とし,

嵯峨上皇 823=49歳 : 東寺を賜って真言密教の根本道場とし, 真言宗僧侶の学修に必要な三学論を作成して献上し, 50人の僧を
おいて祈願修法せしめる。

..... 824=50歳 : 少僧都,

経国集 827=53歳 : 大僧都,

..... 828=54歳 : 藤原三守の九条第を譲りうけて綜芸種智院を開き儒仏道の三教を講じて庶民に門戸を開放。この頃, 漢字辞書として日本最初の「篆隸万象名義」を撰述した。

..... 830=56歳 : 天長六宗書の一つである「十住心論」10巻, 「秘蔵宝鑰」3巻を著し, 真言密教の思想体系を完成する。

空海は個人の宗教的人格の完成, 即身成仏と国家社会の鎮護と救済を目標としたが,

..... 832=58歳 : 高野山で行った万灯万華法会や,

空海没 835=61歳 : *以来恒例となった宮中真言院における後七日御修法はその象徴的表現である。真言宗年分度者3名の設置が勅許され, 金剛峯寺が定額寺に列した後, 奥院で入定した。

弘法大師, 俗に“お大師さん”と略称する。